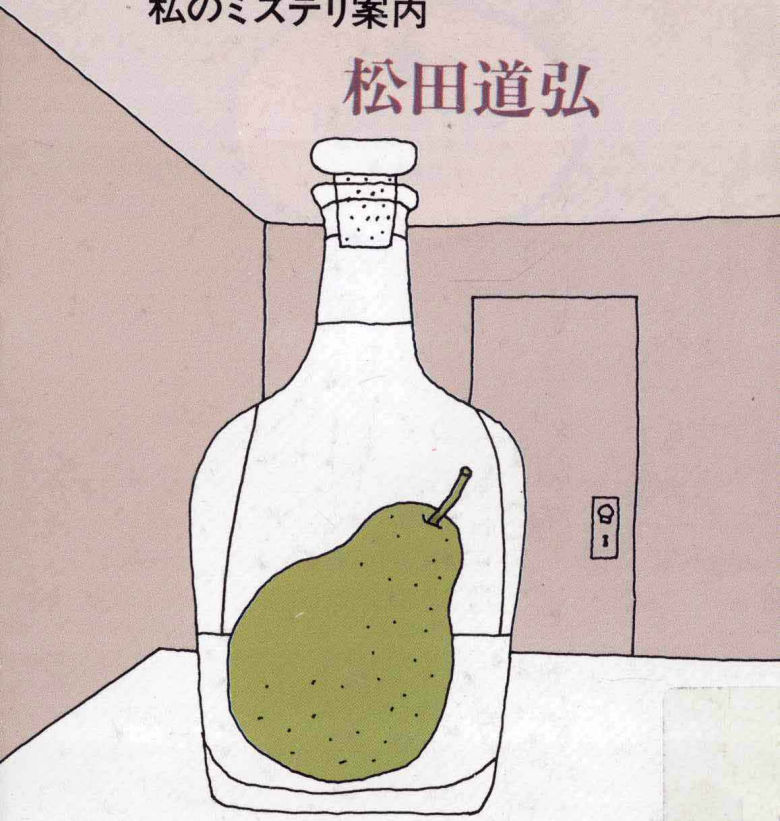
トリックのある部屋

私のミステリ案内

松田道弘



講談社文庫

|著者|松田道弘　1936年京都生まれ。同志社大学卒業後、ラジオ関西を経て、マジック、ミステリ、パズル、ゲームの研究家となる。主な著書に『奇術のたのしみ』『とらんぷのたのしみ』『とりっくものがたり』(以上、筑摩書房)、『ジョークでパズル』(講談社)などがある。

トリックのある部屋(へや)私(わたし)のミステリ案内(あんない)
松田道弘(まつだみちひろ)
© Michihiro Matsuda 1985

講談社文庫
定価360円

昭和60年12月15日第1刷発行

発行者——野間惟道
発行所——株式会社 講談社
東京都文京区音羽2-12-21　〒112
電話 東京(03)945-1111(大代表)
Printed in Japan

デザイン——菊地信義
製版——株式会社東京印書館
印刷——株式会社東京印書館
製本——株式会社国宝社

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部宛にお送りください。
送料は小社負担にてお取替えします。　(庫二)

ISBN4-06-183646-3 (O)

トリックのある部屋

私のミステリ案内

松田道弘

日本財団支援 蔵書

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

講談社

目次

ミステリは二度おいしい　6
技巧的なあまりに技巧的な　18
奇智との遭遇　27
あいまい図形のように　37
たまには純文学を　46
はじめに密室があった　63
さかだちの必然性　74
教授の悪夢　83
それでもスプーンは曲る　92
カーニバルはお好き？　102
ジャパニーズ・バードのひみつ　113
白昼堂々と　124

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

ミラークルの世界　133
チャレンジ！　マスターマインド　143
影もかたちも　153
あしたの新聞　163
木ヘンに赤と書いて　172
がんもどきのつくりかた　182
享保十五年のオートマタ　191
ギルティ、オア、ノット、ギルティ　201
犯罪はひきあわない　210
さまざまな一局　219
あとがき　229
文庫版へのあとがき　231
書名案内と索引　233

本文イラスト　永美ハルオ

トリックのある部屋

私のミステリ案内

ミステリは二度おいしい

――奇抜な着想のはなしをしよう――

世の中には奇妙なことを考えつく人がいるものです。

毎朝自分の顔を鏡にうつして、一枚ずつ写真に撮っているという人がいます。これを五十年間つづけるつもりだというのです。その写真を8ミリフィルムにやきつけると映写時間十分あまりのフィルムになります（8ミリは一秒が二十四コマですから、五十年分が十分ほどに圧縮されます）。こうして連続して映写した写真をみると、自分の顔にシワが次第に生じていくところや、皮膚がたるんでいくところなどが、ちょうどスティーヴンスンの「ジキル博士とハイド氏」のトリック撮影をみるように観察できるのではなかろうかというのです。これはある番組でのことでしたが、インタビュアーの相づちの打ちようもないといったあきれかえったようすが今でも忘れられません。

スティーヴンスンの「ジキル博士とハイド氏」は、その怪奇スリラー的題材が映画向きであ

る上に、二重人格というテーマが俳優たちの演技本能をいたく刺激するらしく、過去に何度も映画化・テレビ化されています。

サイレント時代にも数本あって、もっとも有名なのが「狂へる悪魔」（一九二〇）です。主演の二枚目ジョン・バリモアは、トリック撮影の助けを借りることなく、自分の顔をゆがめていくという顔面演技でジキルからハイドへの変身を表現しました。

トーキー以後はフレドリック・マーチが一九三二年のパラマウント映画で、アカデミー主演男優賞を獲得しています。スペンサー・トレイシーがイングリッド・バーグマンと共演したのは一九四一年の作品です。

老化については同じようなことを考えるひとが外国にもいるとみえて、その過程をシミュレーション（模擬再生）する「エイジ・マシーン」という装置を発明したアメリカの女流アーティストがいるそうです。

カメラの前に立つと、コンピューターが何十年か先の顔をブラウン管の上につくり出してみせるというのです。

自分自身のウィーク・ポイント、この場合は老化現象を、まるでひとごとのように眺めることができるというゆとり……こんなところにその人がユーモア感覚にあふれた奇抜な着想（アイデイア）の持ち主であるかどうかを判別する手がかりがひそんでいるような気がします。

奇想とユーモア感覚は切りはなせないものです。

織田正吉氏はその著「笑いとユーモア」（ちくまぶっくす）の中で、ユーモアの持つ相対性をつぎのような適例で説明しています。

「道に落ちていた縄きれ一本拾ったというので捕えられて罪になったよ」
「縄きれ一本くらいでどうして罪になるんだ？」
「縄の先に牛がついてきたんだ」

「塩のおいしい食べ方を知っているか？」
「塩なんかどうするとおいしくなるんだ？」
「焼きたてのステーキにふりかけるんだ」

シャツからボタンがとれたのを見て、ある人がこういった。
「ボタンからシャツがとれた」

私たちの常識的な感覚とはあべこべに、付帯的な対象物――縄、塩、ボタンといった品物を中心にした奇妙な見方をするところに意外性とおかしみが生じます。視点を転換することで生ずるおどろき（意外性）がミステリや奇術、パズル、落語、マンガなどの原動力になります。

人をおどろかそうと思えば尋常の手段ではだめです。単におどろかすだけでなく、新鮮なおどろきを与えるためには、とびはなれた着想がなければなりません。自分の顔の老化過程をフィルムで観賞してみたいといった着想や、シャツがボタンからとれたといった表現には日常的感覚になれきった常識人を思わずギョッとさせる力（効果）があります。

アーティストといわれる人たちは、どうすれば人をあっといわせる効果が得られるかと日夜腐心しているのです。

H・G・ウェルズという作家は一八九五年に、タイムマシンという奇抜なアイディアを小説に仕立てました。タイムマシンに搭乗すれば時間の障壁をつきぬけて過去へも未来へも自由に旅行ができるというものです。その後このアイディアはさまざまな作家の手によって変形がつくられ、今では「時間テーマ」というSF文学の一大分野にまで発展しています。時間旅行という奇想がよびよせたのがタイム・パラドックスというさらに輪をかけた奇想です。中でももっとも有名なのが「親殺しのパラドックス」でしょう。

タイムマシンにのって自分が生まれる前の過去の時点までさかのぼり、そこで自分の父親（又は母親）を殺したとすれば、自分の存在はどうなるだろうという設問です。首尾よく親を殺したとすれば自分は生まれてきません。自分というものがなければ過去にさかのぼって親を殺すことなどできない相談です。循環論法の底なし沼です。

「タイムマシン」を喜劇化して上演した変りダネが曾我廼家十郎という喜劇役者です。この奇

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

想天外な芝居では、忠臣蔵の山崎街道の場で、勘平が定九郎に財布を返し、鉄砲の音で舞台に倒れていた定九郎がムックとおきあがり、猪が逆さに走って花道へひっこむというのですから、客はびっくりしたことでしょう。

まるで映画のフィルムを逆回転させたようなさかさまの発想ですが、似たようなことを思いつく奇想の持ち主はひとりとは限らないようです。

おとぎばなしの桃太郎の話を知らない人はまずないでしょう。気はやさしくて力持ち、桃から生まれた桃太郎少年が、サル・イヌ・キジをおともに鬼が島を征伐して宝物をぶんどってくるというはなしです。この誰でも知っている桃太郎の話を、おしまいからあべこべに組みたててもうひとつ別のストーリーをつくりあげたひとがいます。

趣向が勝負

さかさ桃太郎のバリエーションも何種類かあるようです。添田知道氏の「ノンキ節ものがたり」（青友書房）には、戦後「苦楽」という雑誌の色ページに無署名でこの話がのっていたと書いてあります。

このさかさ桃太郎を紙芝居にしくんで子供たちを大喜びさせた人もいます。「講談社の絵本」あたりを終りのページから逆に繰っていく要領です。さかさ桃太郎のストーリーを紹介します。紙芝居をみているつもりでよんでください。この紙芝居のストーリーは織田正吉氏にきい

たものです。ファースト・シーンの絵はラスト・シーンからはじまります。

❶ 車につんだ宝物の絵。
桃太郎たちは金銀財宝にかこまれたぜいたくな暮しにあきてきた。こんな不健全な生活に見切りをつけよう、そのためには宝物を鬼が島に返せばいいのだと思いつく。桃太郎が車に宝をつんで返しに行くところ。

❷ 鬼が手をついてあやまっている絵。
鬼は宝がなくなって健全な生活を送っていた。宝をうけとるのだけはどうかごかんべんを、と手をついてあやまる鬼。

❸ 合戦、鬼をくみしいている絵。
どうしてもイヤなら力ずくでも受けとらせるぞ、と興奮しやすい桃太郎が実力行使。

❹ 鬼が島を船上から眺めている絵。
鬼は泣く泣く宝をうけとる。空っぽになってさっぱりした舟で桃太郎たちは帰途につく。さらば宝よ、鬼が島よ。

❺ キジ・イヌ・サルとキビダンゴの絵。
ぜいたくな食生活になれたキジやイヌやサルは、キビダンゴなどまずくて食えぬと、つぎつぎに逃げていく。

❻ 桃太郎旅立ちの絵。

桃太郎の帰還。爺さん、婆さんはまだ元気。

❼ 桃から生まれた赤ん坊の絵。

紙芝居ではこの場面でハタと説明役がつまります。背丈がちぢんだ桃太郎の絵を、みる人に納得させる論理的理由が何もないからです。見物客も、ここまではうまくつじつまをあわせてきたが、この難関をどう切りぬけるのだろうかと期待するわけですが、紙芝居の演者は「ここ

がいちばん難しい」とあっさり降参してしまいます。とってつけたようなその場で思いつきのコジツケをいってわざと客を笑わせるという逆手のテクニックで切りぬけます。「苦楽」ではある日突然桃太郎が書置きと桃をひとつ残して蒸発してしまうという話になっているそうです。

❽ 川に流れてくる桃と老婆の絵。

桃を冷やして食べようと婆さんが川へもっていったところ手がすべって桃が流れていってしまいます。

人をおどろかそうと思えば何か変った趣向をこらさねばなりません。

あべこべの順序

むかし映画が活動写真といったころ、活弁という職業がありました。活弁は活動写真弁士の略です。当時は無声映画でしたから、弁士は登場人物全員のセリフからナレーション係りまでを一手に引きうけていました。大変な重労働でしたが、都合のいいこともあったのです。

テレビの音声を消して画面の登場人物が口をパクパクさせるのに即興のセリフを合せるイタズラをやったことはありませんか。

へたな映画解説者が、解説と称して映画のストーリーをあまさずバラしてしまうといったことのない時代でしたから、弁士は画面の解釈を説明ひとつで自由に変えることができました。「アンナ・カレニナ」が封切られたとき、姦通はけしからんというので（何しろ当時は姦通罪が現行法でしたから）、アンナの夫を兄に変えてしまうといったトリックも平気で行われました。嫉妬に狂う夫の姿と怒りにまかせて妹に意見する兄は区別がつかないだろうというわけです。

ときには映写技師がフィルムの上演の順番をまちがえて筋（ストーリー）が前後したようなときでも、

ちゃんとつじつまをあわせてしまうような芸当もやってのけたのだそうです。

映画がトーキーになってからも活弁の需要はありました。映画館によっては、わざとトーキーの音を消して活弁に頼ったところもあり、また映画そのものも経費節約でパート・トーキーの作品があったりしたからです。

しかしときには弁士の勇み足もあったようです。

「探偵小説通」（松本泰著・昭和四年、三省堂）の中に、「撮影所の殺人」という映画を評したこんな文章があります。

「犯人が等身大の人形と共に、自動車で撮影所を出る時、腹話術で被害者の声色を使って門衛をごまかしてしまうところがある。トオキイだからそこは旨くゆく。観客は声を聞くからその男がその時刻には生きていて家へ帰ったものと信じる。ところが弁士が『声は聞えたが、自動車の中は暗くて、果して当人が乗っていたかどうかは疑問である』などと、余計な口を入れたために、そこですぐに種がわかってしまい、失望させられた。探偵映画の説明はこういう点によほどの注意を要する」と書いています。

まるで現在の映画解説者が何かというと作品のタネやミソを「解説」したがるのとよく似ています。

一八四一年、エドガー・アラン・ポーという三十二歳のアル中の鬼才が、奇抜な着想を「モルグ街の殺人」という短篇に結晶させて読者をびっくりさせました。ポーの開発した新しい形

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton